

「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

機関名	山形大学	整理番号	O02
プログラム名称	フロンティア有機材料システム創成フレックス大学院		
プログラム責任者	大場 好弘	プログラム コーディネーター	飯塚 博

◇博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価（公表用）

〔総括評価〕

計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。

〔コメント〕

リーダーを養成する学位プログラムの確立については、通常の専門課程のプログラムに加えて、キャリアデザイン科目として新設されたキャリアデザインセミナー、フレックス大学院シンポジウム、グローバルコミュニケーション演習、他分野派遣（研究室ローテーション）の実施などを通じて、目標に即した学位プログラムが組み立てられており評価できる。

産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性については、短期海外研修時の企業訪問に始まり、国内関連分野企業でのインターンシップ、そして大学のみならず企業の研究所における長期海外インターンシップを段階的に経験することにより、新たな分野に挑戦し、国際的な舞台でも活躍出来る人材の育成に向かって着実に実績を積み重ねている。更に、九州大学と山形大学の定期的な合同ブレインストーミングの取組は、学生が自分自身の成長過程を客観的に把握し、勉学・研究活動に主体的に取り組むための刺激を与える取組として高く評価できる。

グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備については、当該分野の代表的な教員を中心に山形大学の教員が多数参画し、学外の産学官の教員、メンター・コア担当教員の採用、海外研究機関との連携を着実に進めるなど、当初計画に従って着実に整備されている。

優秀な学生の獲得については、工学系の広範な分野の学生が参画していることに加えて、留学生および学外からの入学者がそれぞれ約3割となっているなど多様な背景をもつ学生の獲得に十分に成功していると評価できる。

世界に通用する確かな学位の質保証システムについては、2年次後期にQE予備審査及びQE本審査を、5年次後期に各主専攻による博士論文の審査・最終試験及び本プログラムのコース修了試験を課しており、十分な審査体制が取られていると判断できる。特にこうした様々な審査が、研究力やグローバル力、価値創成グローバル実践力など、様々な観点を踏まえて行われている点は評価できる。

事業の定着・発展については、研究科の新設及び、理工学研究科（理学系）の教員の参画が計画されており、今後着実に進むものと期待される。

博士課程教育リーディングプログラムでは、深い専門性に加えて、様々な国際的舞台上で活躍出来る人材の育成を目標にしている。山形大学が進める「フロンティア有機材料システム創成フレックス大学院」では、専門性のみならず当該分野を幅広く俯瞰的に見渡せる力の育成にも力を注ぎ、同時に、国内外の各種機関でのインターンシップ等を通じてグローバルに活躍できる人材の育成を進めている。上記にもまとめているこれらの取組は、計画以上の成果を上げていると判断される。